

令和5年度
一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会
第40回定時総会

当協会の第40回通常総会が令和5年6月7日（水）、沖縄ハーバービューホテルで開催された。

コロナ禍の影響で3年連続、規模を縮小し、開催されていたが、今回、新型コロナの感染減少や皆様のご理解を受け、4年ぶりに例年通りの規模で、行われた。

総会では、友利専務理事の司会の元、議長に宮城会長を選出し、議案審議を行った。

また、正会員32名中、出席者20名、委任状2名で、定足数16名を超え、本会が成立することが報告され、出席者の中から、仲松隆司及び勝連朝春を議事録署名人に選出された。

議事として、第1号議案、第2号議案が提案され、監査報告書については、宮良洋三監事から報告があり、両案とも全会一致で承認され、上原副会長の挨拶で閉会した。

議事

I、第1号議案

- (1) 令和4年度 事業報告の件
- (2) 令和4年度 決算報告書
(正味財産増減計画書、貸借対照表、財産目録)
- (3) 監査報告書

II、第2号議案

- (1) 令和5年度 事業計画書（案）
- (2) 令和5年度 収支予算書（案）

<総会の様子>



宮城会長



議長団



総会会場



総会参加者

「設備合同懇親会」

<挨拶>



(一社) 沖縄県設備設計事務所協会
会長 宮城 正和

只今紹介を頂きました(一社) 沖縄県設備設計事務所協会の宮城でございます。総会シーズンでお忙しい中ご出席を賜りましたご来賓の皆様、賛助会の皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

本日、当ホテルにおきまして、令和4年度の事業報告、決算書並びに令和5年度の事業計画、及び予算書の承認を得て無事に総会が終了したことを報告いたします。

コロナ禍で過去3年間このような懇親会を開催することができませんでした。が4年ぶりにこのように開催できることが大変うれしく思っております。

また、当会は、今年度で40周年を迎えます。昭和58年に技術者団体として発足した設備設計事務所ですが、2003年には法人化が許可され、現在は公益性の高い一般社団法人として、建築設備の設計、監理業務の進歩・改善及び設備設計事務所の適正な運営及び資質の向上に努め、公共の福祉の増進に寄与することを目的として今日に至っております。

さて、私たち設備設計を取り巻く環境は年々複雑、多様化してきております。特に図面作成においては、いわゆる手書きから CAD になり、製図板からパソコンに変わりました。さらに、新たな取り組みとして BIM の活用があります。BIM の導入は、BIM 習熟までの時間や入力時のデータ量の多さなど課題が多々、ありますが、新技術の導入に向け、会員一同、積極的に取り組んで行く所存であります。

又、政府は 2050 年のカーボンニュートラルの実現に向け、2022 年に改正建築省エネ法を公布しました。2030 年度に温室効果ガスを 2013 年度比で 46%削減、そして 2050 年度に温室効果ガスを実質 0 にしなければなりません。このため、建築物の省エネ性能の向上はもとより ZEB や ZEH 水準の省エネ性能の確保が求められています。

このことから、より一段の省エネルギー化と再生可能エネルギーの活用など我々設備設計の力がより必要とされることを感じております。

このように私たち設備設計技術者を取り巻く環境は年々複雑多様化しています。

さらに、年々、建築物が大型化、多様化する中、新技術の導入や省エネ、コロナ禍を考慮した快適空間形成、災害時における建物機能維持等、建築設備の果たす役割は益々増加しており、建築設備技術者の対応力が求められています。協会としてもそのことを十分に認識しながら会員すべてが職能集団として、建築設備士等の資格取得を奨励しその職務を果たして行く所存でございます。また、行政機関におかれましては、建築設備の専門性をご理解して頂き、JV 発注や特殊部門における分離発注等、誠に感謝申し上げます。

最後になりますが、ご出席の皆様のご多幸、ご健勝を祈念し、主催者の挨拶に代えさせて頂きます。本日は、最後までごゆっくりご歓談下さい。有難うございました。

懇親会 会場

